

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0570406207
法人名	バンドーケアポート株式会社
事業所名	グループホーム バンドー大館
所在地	秋田県大館市釈迦内字下清水27 (電話) 0186-45-2655
評価機関名	財団法人 秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田県秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成20年12月18日

【情報提供票より】 (20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 3月 1日
ユニット数	3 ユニット 27人
職員数	20人 常勤 13人, 非常勤 7人, 常勤換算 15.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 1階建ての1階部分1ユニット、2階建ての1~2階部分2ユニット
------	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	26名	男性	2名	24名
要介護1	1名	要介護2	4名	
要介護3	17名	要介護4	4名	
要介護5		要支援2		
年齢	平均 90.9歳	最低	77歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人愛生会 石田病院 (内科・歯科)
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者の福祉理念が、職員一人ひとりに周知理解されており、更に、その理念達成のため、ユニットごとに具体的なサービス理念を掲げ、常にそれらを意識しながら、日々の支援が実践されている。また、職員は穏やかで丁寧な対応を心がけ、詳細なアセスメントから、利用者個々の生活スタイルを導き出し、充実した生活作りに活かす努力をしている。ホーム内は、落ち着きとゆとりにあふれた雰囲気があり、利用者の表情や会話は穏やかである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	施設に関しては、職員が問題意識を持った上で、他に改善策がないか模索し検討してる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己点検シートを整備して、各ユニットごとに自己評価が実施され、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、隔月に開催されており、新しい情報を得たり、会議で出された意見をケアの向上に活かすよう努力している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時等を利用して、苦情・不安・不満等の声を聞くように心掛けており、ケアの向上に結び付けるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	同法人の他施設と交流の機会が設けられ、地域の吹奏楽団や祭典みこしなどの訪問や、ボランティアを受け入れたり、保育園児との交流会を開催するなど、年間を通じて地域との交流は図られている。

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体としての企業の福祉理念のほか、ユニットごとにサービス理念が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に職員が意識できるように、理念は各ユニットの共有スペースに掲示されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年間を通じて各種の慰問を受け入れ、地域との交流は図られている。また、同法人の他施設との合同交流の機会も設けられている。	○	今後は、来訪の受け入れにとどまらず、利用者が地域に出向いたり、日常的な付き合いを深める等、より一層の取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己点検シートを整備して、各ユニットごとに自己評価が実施され、具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が定期的開催されており、新しい情報を得たり、また、会議で出されたさまざまな意見が、サービス向上に活かされている。	○	会議記録はあるものの、職員全体に周知されていないため、回覧等により会議結果の周知を図ることが望まれる。また、地域包括支援センターの職員をメンバーに加える等、一層地域との連携が図られるよう検討される事を期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類提出等の機会を活用して、市町村担当との情報交換を行なっている。	○	更に、市町村担当者と情報交換・連携強化の場を、より積極的に設けるよう望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理に関する毎月の収支報告のほか、随時、家族に利用者の生活状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等を利用して、家族からの意見・苦情・不満等の声を聞くように心がけている。	○	更に、家族の意見・苦情・不満等を具体的に引き出す事ができるような取り組みに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にとどめ、できる限り利用者への影響を抑える配慮がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画は定められていないが、自主参加の研修受講後、報告書が作成され、情報を共有している。また、職場内研修の早期再開に向け取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での職員交流の場が設定されているが、運営者・管理者の参加が多く、地域の同業者との交流の機会もほとんど行われていない為、全職員がケアの向上に繋がる取り組みには至っていない。		市内で唯一、3ユニットを運営していることをふまえて、地域の同業者に呼びかけながら、意見・情報交換等の機会を作り、ケアの向上に活かされるよう期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームの説明や見学を行い、利用者に納得していただき、在宅での生活状況を考慮した上で、ホームでの生活に馴染めるような配慮がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との共同作業などから、利用者と共に歩む姿勢が見られ、各ユニットごとの特徴をふまえたサービス理念が、ケアに反映されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや暮らし方の希望に添い、家族等の意向も伺いながら、一人ひとりの暮らし方を重視したケアの実践に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族から、センター方式を活用して詳細に情報を収集し、話し合いが持たれ、チームの意見が反映された介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアカンファレンスを定期的で開催し、モニタリングおよび必要に応じた課題等が、職員全員参加の中で検討され、利用者の現状把握に努めている。また、更新時・状態変化時に計画作成担当者・本人・家族と話し合い、計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の負担にならないよう、通院等できることはグループホームで柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の往診のほか、利用者個々のかかりつけ医の外部受診にも対応している。受診の際には運転手のほかに職員が付添い、安全に受診できるよう体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	文書を掲示するほか、全職員で「重度化した場合の対応についての指針」を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム内に文書を掲示しているほか、ケアカンファレンス等を通じて、利用者個々のプライバシー保護や、尊厳の保持についてもテーマとして検討されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの生活のペースや希望を大切に、穏やかで丁寧な言葉遣いで支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のリクエストを受けて、ユニットごとに食事メニューが作成されており、職員とともに調理したり、後片付けを行なっている。利用者と同じ食事ではないが、家庭的な場面の提供がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	入浴は、完全な個人浴スタイルが提供されている。一定の時間や曜日の決め事はあるが、個人の状況に合わせて、臨機応変に対応できる体制が整っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントに基づいて、利用者個々の生活歴等を考慮し、ユニット内で何らかの役割を持ってもらうなど、張り合いのある生活が送れるよう支援されている。また、敷地内に畑を作るなど、生活の中に楽しみを見出せるような配慮も工夫されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季間以外は、ドライブや近所に散歩に出かけたりするなど、希望を取り入れた支援を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	危険防止のため、現在は家族に説明し、同意を得た上で施錠している。	○	職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、施錠以外の方策がないか継続的に検討している。今後も検討を重ね、施錠しなくても、利用者の安全が確保できるような環境づくりを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署等を交えた広域訓練のほかに、ホーム独自で毎月自主訓練が実施されている。		災害時には、地域住民の協力も不可欠となるため、地域を含めた訓練へと発展させることを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとに水分量・食事の摂取状況を記録し、利用者の健康状態の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い思いに過せるよう居場所を確保したり、家庭的な雰囲気大切にしながら、ユニットごとに、利用者の状態に合わせた空間づくりが工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、利用者が使い慣れた品物や、なじみの品物を持ち込むことで、精神的な安定が維持されることを重要視しており、家族に対しても、その点について説明を行ない、持ち込んでもらえるよう働きかけている。		

※ は、重点項目。